令和８年５月２９日

大山町議会議長　吉　原　美　智　恵　　様

大山町議会議員　小林　直哉

令和８年大山町議会議員研修報告書

１	研 修 名	令和８年度　新議員・新任議会事務局長・職員研修会
２	日　　時	令和８年５月１８日（月）１３：００～ ５月19日（火）１５：００
３	出 席 者	小林直哉
４	研 修 地	全国市町村国際文化研究所
５	研修内容	自治体決算の基礎と実践～行政評価を活用した決算審査～
６	研修結果又は概要（意見・感想）	１．自治体決算の意義と審査のポイント 金崎　健太郎氏 ●地方公共団体と民間企業会計の比較 民間企業会計は利益が重要であり結果(決算)が重要であることに対し地方公共団体はお金の使い道(予算)が重要ではある事など前提や会計制度についての知見を得た。 ●自治体決算の役割、決算関連書類について 予算が重要な中での決算の役割は、政策の効果を確認し予算に反映させること。しかし決算を認定する時期と予算を承認する時期の兼ね合いから前年度決算を次年度予算に反映させることとなり２年のタイムラグは生じる。連続性の確認が重要となる。 主要な施策の成果を確認する資料は自治体ごとに異なる。より精度の高い資料を求めることも重要。 ●決算を用いた財政診断 各自治体の決算を比較できるようになっているので、類似団体や周辺自治体との比較で評価することが重要。 自治体は基本的にお金を稼ぐのではなく使う役割が大きい組織であるので、実質収支などの指標の重要度はそれほど高くない。 見るべきは実質単年度収支の推移であり、赤字が続いているようだと

		財政の見直しが必要との事で本町も注意が必要と感じた。 　また経常収支比率を類似団体や周辺自治体と比較し、数値が高いようだと固定費の見直しも必要。本町も高いので注視していきたい。 　全体を通じ改めて決算の役割や効果測定、予算への反映の重要さを再認識した。財政診断についての知見も深め、本町で注視すべき点も整理できた。 ２，自治体決算の基礎と実践 小西　敦氏 　行政による政策評価は評価法に基づき行われるが、議会が行う行政評価の法律や規定はないため、議会によりさまざま。政策評価、施策評価、事務事業評価などの手法があるが、ほとんどの議会で決算関連資料による評価にとどまっているのが現状であった。行政側で行っている事業評価や総合計画や地方創生事業のＫＰＩを確認することが求められる。 　先進事例として事務事業評価を行っている藤枝市を先進事例として学び、その資料を討議する実習を行った。 　大山町においては各事業のＫＰＩ評価や議会における事務事業評価はすでに行っており、議会における決算評価は先進的であると感じた。 　研修や実習を通じて、評価手法や根拠法・制度など決算についての理解が深まるとともに、他自治体の議員との繋がりも出来た。決算においては他自治体との比較も重要視されるので、この研修で得た知識や繋がりを今後も活かして活動していきたい。